

---

# 教職支援センター一年報

---

# 2012

関西大学 教育推進部  
教職支援センター

## 『教職支援センター年報 2012』目次

教職支援センター年報の発行に寄せて ＜投稿原稿＞	教職支援センター長 山本 登朗	1
教員の確かな実践力こそ児童生徒の「生きる力」を育む！！—大学の授業の役割と具体的方策の1事例—	非常勤講師 教職アドバイザー 藤井喜代美	2
国語科教育法を教授していく中での問題点	非常勤講師 石田 晋一	8
ノートが取れる・文章が書けるための表現指導—書き取り・書き写しを活用して—	奈良工業高等専門学校 一般教科教授 鍵本 有理	13
各学部・大学院で取得できる免許状の種類・教科		19
介護等体験 参加者数		21
中学校・高等学校教育実習生数		22
教員免許状取得状況・取得者数一覧		23
教員採用試験合格状況・合格者数		30
教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果		33
教員採用試験 試験日・合格発表日等について		34
教員採用試験対策支援スケジュール		36
主な教職支援内容について		37
他キャンパスにおける教職相談日程		38
教員採用試験 筆記試験対策について		39
教員採用試験の合格をめざして（講演要旨）		45
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～		53
2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について		54
介護等体験事前指導について		55
本学卒業新任教員の方々との情報交換会		56
3年次生対象「教育実習ガイダンス」について		57
教員採用試験合格者との情報交換会		58
教職専門科目担当者研究会		60
教員採用試験合格者壮行会		61
教職に関する専門教育科目担任者一覧		62
教育実習出向指導校一覧		67
教職実践演習 自己評価シート		69
年間の主要行事一覧		70
年度末・年度始 教職ガイダンス日程		71
教職支援センター 利用状況		72
教職支援センター中期行動計画		74
教員免許状更新講習について		76
教職支援センター年報 投稿規程・執筆要領		79
教職支援センター委員会委員名簿		81
教職支援センター規程		83

# 教員の確かな実践力こそ児童生徒の「生きる力」を育む！！

## —— 大学の授業の役割と具体的方策の1事例 ——

関西大学非常勤講師・教職アドバイザー 藤井喜代美

国際化、情報化、少子高齢化、環境問題等と日々激変する先行き不透明な社会、そして、大きな社会問題として毎日報道されているいじめを初め、不登校、自殺、暴力、殺害等青少年の残虐な行為、学級の荒れ等を考えるとき、人、物、自然とのかかわりや在り方が、一層大切になってくる。即ち、子どもたちに、自他の生命を尊重し、健全な自尊感情や他者への思いやりの心を大切に、自らを律し、主体的に、人間らしく、心豊かにたくましく生きていく「生きる力」、即ち知・徳・体の調和のとれた実践的な能力が求められる。特に、[生きる力]の中核となっている豊かな人間性を育てていく「心の教育」、道徳教育の充実、学習指導要領の改訂の度に明示されている。今回の改訂では、小中高校において系統的、発展的に、各教科・領域等全教育活動を通して行うことが強調され、特設の道徳のある小中学校では、道徳教育推進教師が導入され、この推進教師を中心に全教師が協力して、道徳教育の充実、推進をすることが明確化された。高校では、新たに道徳教育の全体計画の作成が規定される等道徳教育が重要視されている。

学校教育の現場で教諭、教頭、校長として、教育行政では指導主事として、道徳教育の研究と実践、指導助言等に一貫して取り組んできた中で把握した各学校での実践状況、また教職課程の必修科目である「道徳教育の研究」「教育実習」の講義（授業）での受講生の声を聞き残念に思った。その内容は、小学校では記憶にあるが、中学校、高校では時々テレビやビデオ等を見て感想を書く、人権学習や他の授業、行事、生徒指導等に変わるのがよくあり、道徳としての授業としてはどうだったのかな等の多くの声である。そして、極端な話であるが、「教育実習」の受講生から「私は、『道徳教育の研究』の授業に1回だけ出席して、レポートの提出だけで、最高の評価で単位が取れた」ことを聞き大変驚いたことがある。大教室での多数の受講生を対象にした講義とはいえショックを感じた。同時に、これでは学校現場で道徳の授業がしっかりできないのではと、「道徳教育の研究」の授業の役割の大きさと責任を痛感したのである。

私は、平成17年度から教職相談と教員採用選考試験対策セミナーでの指導助言を主な職務とする教職アドバイザー（キャリアデザインアドバイザー）として、加えて平成18年度からは教職必修科目「道徳教育の研究」と、「教育実習」の授業にも力を入れて取り組んできた。

そこで、次に、この三つの指導の場の連動を考えながら、この間、信頼され自信を持って、教員として職責を果たせる資質能力、とりわけ一層力を入れるべき道徳教育の実践力の育成をめざして、取り組んできたことを具体的に述べることにする。

### I 道徳教育の実践力の育成

#### 1 道徳教育の基礎・基本の理解と実践

子どもたちに、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育成するには、指導者である教員に「生きる力」が求められることは言うまでもない。また、上述の実態を考

えるとき、学校においては、自分らしく、人間らしく共に生きていく上で、最も大切な人格の基礎をなす、人格的特性である道徳性の育成をめざす道徳教育の更なる充実が重要と考える。そこで、私は、大学の教員養成の本授業において、道徳教育の基礎基本をしっかりと教え、伝えていくことの必要感を強くし、取り組むことにしたのである。特に、道徳教育の重要性、学校の全教育活動を通して行う道徳教育の意義、目標、その「要」として重要な役割を持つ道徳の時間の意義、目標、内容、指導方法と指導展開、学級作り等の理解と技術、学校・家庭・地域社会の連携等の理解を重視し、受講生の実践意欲を高め、実践力の向上を願って取り組んできた。知識、技能の習得を基に、気づき、思考、創造、実践意欲等に繋がると考えるからである。次にその実践概要を述べることにする。

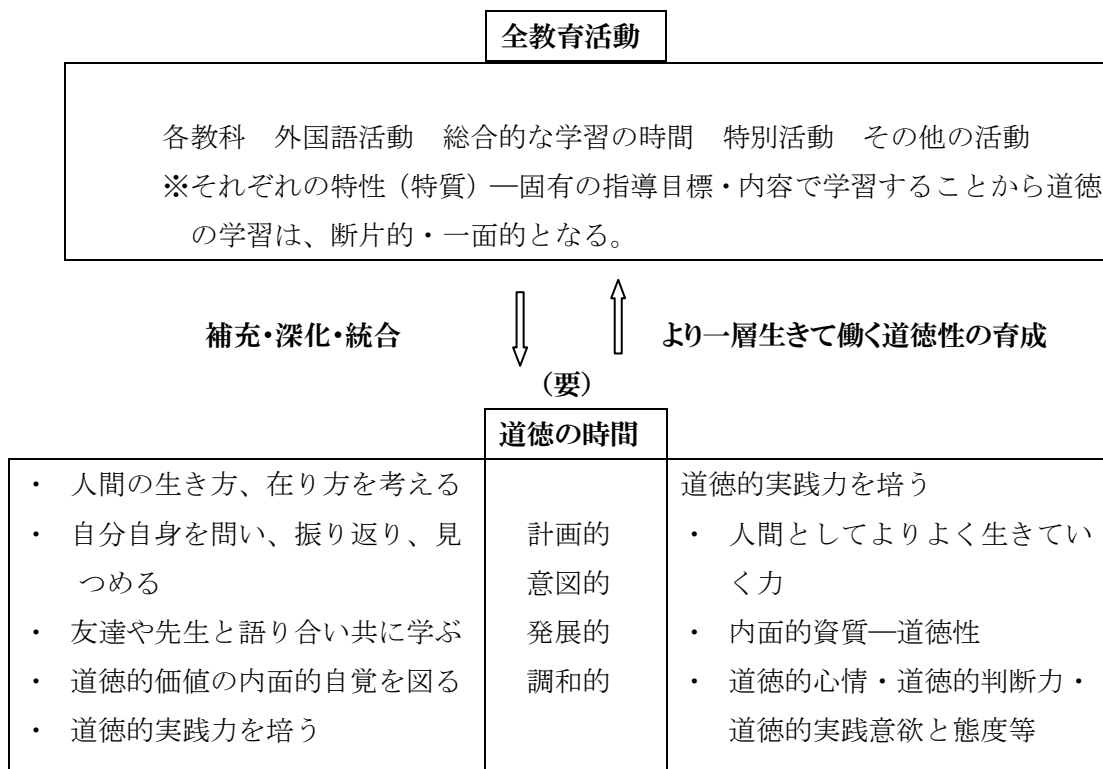
## 2 「道徳教育の研究」講義（授業）の実践例

### (1) 受講生を考慮して

授業担当は2コマ。1コマ200名前後、多い時は300名を越える大教室での授業となる。教職科目として必修科目であるが、受講生は、教員をめざしている学生を中心に、社会人、家庭人として等興味関心のある学生等多様であることを考慮しての授業となる。

### (2) 道徳教育の実践力の向上を図るために

学校教育において、豊かな道徳性を育成する道徳教育の充実は、教員一人ひとりが実践力を身に付け発揮することが基盤である。そこで特に、道徳の時間を初め、各教科、外国語活動（小学校高学年）、総合的な学習の時間、特別活動等学校の教育活動全体を通じて行うものであること、その要としての道徳の時間の重要性、道徳学習指導（道徳授業）案の作成と実践、学校・家庭・地域社会の連携、道徳教育と生徒指導の関係を授業内容の重点とした。



(3)「道徳教育の研究」の講義(授業)の実践内容——H24年度秋学期

回	授 業 内 容	備 考
1	・ 道徳とは ・ 道徳教育の重要性と目標	・ 科目履修の心得 ・ 思いやりの心
2	・ 道徳教育と学校・家庭の役割 ・ 家庭における道徳教育	・ 家庭が果たす道徳教育の役割 ・ 家庭環境と保護者
3	・ 学習指導要領と特設道徳の時間 ・ その変遷・道徳指導の目標・内容 ・ 道徳性の発達と指導	・ 教師の基本的姿勢・小・中・高校の一貫した発展的指導・学級作り ・ 人間らしく生きる力
4	・ 学校の全教育活動における道徳教育と道徳の時間の関係と連携指導 ・ 「要」※補充・深化・統合	・ 道徳との具体的な実践指導の事例をもとに ・ 国語科(小学校-友情)社会科(中学校-環境)特別活動(高校-責任と協力-ホームルーム活動で)
5	・ 道徳教育の全体計画・道徳時間の年間指導計画 ※ 道徳授業の積極的な実践	・ 作成の体制・方法と意義・留意事項 ・ 小・中学校の事例をもとに
6	・ 心に響く指導案の作成と指導事例 ※ 避難訓練のため、「5」と入れ替え	・ 小・中・高校の事例 ・ 「ぐみの木と小鳥」「カーテンの向こう」「小さな勇気」
7	・ 中学校の実践事例の発表を聞いて	※学園祭で中止→「9」の前半へ
8	・ 道徳授業のDVDを視聴して ・ 効果的な指導の展開を考える	・ 指導者(藤井)の提供授業を参考に ※資料-身近な体験の自作「水がかかったよ」
9	・ 中学校の実践事例①と② ・ 高校の指導事例(ボランティア活動)	①教育実習での指導体験に学ぶ ②CD活用の展開の工夫 - 「償い」(実話)・実際の体験による読み物資料
10	・ 学校と家庭・地域との連携 ① 挨拶運動の取り組みの事例を通して	・ 多様な活動と連携の方法 共通理解、情報交換、参加と協力等
11	・ 学校と家庭・地域との連携 ② 参観日には、積極的に道徳授業を	・ 保護者の声を生かした授業展開 ・ 授業後の懇談会の話題と意義
12	・ 道徳教育と生徒指導の関係	・ 道徳教育と生徒指導の相互関係と連携指導-小・中・高校の事例
13	①実践事例を通して②いじめに関する指導	
14	・ 道徳教育の評価(子どもの道徳性、教師の取り組み)	・ 道徳性-数値で評価をしない
15	・ 道徳教育の充実と課題	・ 指導体制・実践的指導力の向上

### 3 成果と課題

- ・ 本授業で深めた基礎的・基本的内容の理解が実践意欲を高め、道徳教育の実践力に繋がることを実感できた。この成果が実際に学校現場で生かされることを信じてやまない。
- ・ 授業内容の充実を図るには、受講生の人数としてせめて100名程度にと、毎年提案してきた。平成24年度にはじめて、150名までの配慮があり、いつもより受講生の態度もよく、授業がしやすかった。

尚、平成20年12月に文科省教職課程認定大学実施視察(梶田叡一視察委員他2名、文科省2名、大阪府教育委員会1名、吹田教育委員会1名、本学関係者河田悌一学長他

14名)があり、私の「道徳教育の研究」の授業参観があった。これを機会に私のシラバスの例示をサンプルに、道徳の授業の内容のより一層の充実と標準化を図るために道徳の授業担当者の講義要項に生かされる等、改善があったことは特記すべきことと考える。

## II 「教育実習」で、道徳授業の実践を

教育実習は、大学で「教職」について学び、養われた教育理論や教科等の内容や指導等に関する知識や技術等を、学校の教育現場で、教育実習の担当教諭の指導の下で、全力で実践する中で、試し、確かめ、教師に必要な資質・能力を身に付けることにある。従って、教育実習は、学校組織の中で、実際に子どもたちとの人間関係を通して、各教科領域等の指導や生徒指導、クラブ・部活等多様な教育活動の貴重な訓練をする場であるとも言えるのである。

また、教育実習は、教員に必要な基礎的な資質・能力だけでなく、教育実習を通じて、教育実践を支えている教職員の多様な校務の実態にもふれ、教員の職責の重さを実感する中で、自分は、子どもたちにどのように関わり、どのような教員になりたいのかと、自問自答したり、教職への適性や課題を確認したり考えたりすることに意義がある。

ところで学校の教育活動の大半は教科指導である。そのため教育実習の中心は、教科指導となるため、道徳指導の実習はなかなかさせてもらえないのが実情である。そこで私は事前指導の中で専門の教科指導と道徳の指導案を全員に作成させ、模擬授業の4名の中で1名、道徳授業を行うことにしたのである。(時間は、一人15分～20分)

### 1 道徳学習指導案の作成と模擬授業

- (1) 道徳学習指導案の形式の説明(学年・組・指導者・主題名・資料名・主題設定の理由・指導目標・指導展開・その他の工夫・準備物)
- (2) 道徳学習指導案作成上の留意点
- (3) 指導展開例の紹介
- (4) 模擬授業(指導案作成は宿題)
  - ・全作成者の中から立候補または指名で決める。
  - ・授業後にグループで話し合い(参考にできる所と工夫をしたいところ)

### 2 教育実習校での授業実践事例(要点のみ)→「道徳教育の研究」の授業での発表を依頼

- ※ 道徳の授業をする時間がないと言われたら無理に依頼をしないことにした。
- ※ 道徳の時間の指導を初めて経験、その大切さを再認識できたとの声を聞く。

#### (1) 事例1 (中学校1学年 H22年実施 女子学生) 1時間

- ・主題名 理想の実現
- ・資料名「人生はハッピーなほうがいい」(出典 読み物資料『向井千秋の宇宙と体のおもしろい関係』) ※ 資料提供
- ・主題設定の理由 (価値について・生徒の実態・指導観)
- ・本時の指導目標  
夢を持つことのすばらしさに気づき、自分の将来について考えさせる。また、何事にも自ら考え、自ら行動する積極的な態度を養う。
- ・指導展開

読み物資料、新聞記事、ワークシートの活用

(2) 事例2 (中学校1学年 H23年実施 男子学生) 2時間

- ・ 主題名 東日本大震災について ※全教育実習生に授業実践を課す。
- ・ 資料名 東日本大震災に関連する新聞記事・写真等の資料から
- ・ 主題設定の理由 (生徒の実態・教材観・指導観)
- ・ 本時の指導目標
  - 1 時間目 東日本大震災をきっかけに、今までの自分の生き方を見つめ直す。  
(毎日子ども新聞の記事―父と家を失った6年児童の日記)
  - 2 時間目 資料を通じて、人と人とのつながりに気づき、人を思いやる気持ちを養う。
- ・ 指導展開
  - 授業者自身の2泊3日のボランティア活動の現地での実体験、生徒の持ち寄った資料、電子黒板(動画)、色画用紙6枚、感想用紙等の活用。
  - 事前指導―資料集め 事後指導―感想文を道徳新聞として発行→まず感じて下さい。そして動いてください。自分の周りの人に優しくしてみてください。その一歩が復興の第一歩になると思います。(授業者の言葉)

(3) 事例3 (中学校2学年 H24年実施 女子学生) 1時間

- ・ 教材名 指導者(私)の体験談
- ・ 主題設定の理由 (生徒観、教材観、指導観)
- ・ 本時の指導目標
  - 海外での生活を通して、異文化を理解し、自分の生き方を追求していく指導者の体験の過程を聞くことによって、生徒自からの生き方を見つめなおす。
- ・ 指導展開
  - ※ 経歴→短大(英語科)卒業→一般企業約4年で退職→約1年半カナダで生活→帰国後専門学校1年間(日本語教師養成)→中国で日本語教師2年後、半年中国の大学で学ぶ→関大3年次編入今に至る。

### 3 成果と課題

- ・ 実習生の実践力の向上に繋がり、「道徳授業の研究」の受講生の実践意欲にも繋がった。
- ・ 今後「教育実習」の改革で、授業数が増える中で、道徳授業案の作成と実習校で1時間の授業実践を義務づけてもよいのではないかと考える。

## III 教員採用選考試験対策セミナーと求められる教員の資質能力

### 1 教職相談

教員になることへの多様な迷いや不安、教員になるための方法と対策等(詳細略)。

### 2 教員採用選考試験対策セミナー

3月末の説明会に始まり4月～9月末までの6ヶ月間、教員志望者を全力で支援。

しかし、単に合格率を高めるだけではない。

#### (1) セミナーのねらい

- ・ 合格のためのノウハウを身につけるだけでなく、支援の過程で、自信と誇りを

持って教育実践ができる教員をめざす。

- ・子どもたち一人ひとりの人格形成に関わる者として、子ども、保護者、教職員、地域の人々に信頼され、自覚と責任を持って取り組める教員をめざす。

(2) セミナーの具体的内容 (内容と方法・資質能力と評価観点・指導助言の詳細略)

- ・集団面接、個人面接、集団討論、場面指導、模擬授業、エントリーシート、面接個票、論文の書き方等 ※ 質問内容は基本的、常識的で、今日的な課題。
- ・自分らしさを出すことがポイント (裏づけとなる体験、エピソードで)。

(3) 求められる優れた教員像

① 文科省 ((中教審-H17年、優れた教師の条件一)

- ・教職に対する強い情熱—教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感、学び続ける向上心
- ・教育の専門家としての確かな力量—子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級作りの力、学習指導・授業作りの力、教材解釈の力等。
- ・総合的な人間力—豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力等の人格的資質、教職員等との協調性。

② 地方自治体 (求める人物像 省略)

③ 子ども、保護者 (安心して預けられる先生!!)

- ・面白い、気軽に話ができる、一緒に遊んでくれる。
- ・元気で、明るく、温かい。
- ・授業がよく分かる、けじめがある。
- ・情熱と信念を持って親身になって関わってくれる。
- ・子どもの思いを共有し、共に取り組んでくれる。

教員採用試験合格者数 (公立)

年度	小	中	高	合計
24	34	46	28	118*
23	28	31	28	87
22	42	43	33	132*
21	34	28	23	85
20	33	15	15	80*
19	39	26	12	91*
18	26	27	11	69*
17	25	19	9	54*
16	13	8	7	28

※合計欄の(\*)は、併願の合格者数を含む

3 成果と課題

- ・道徳教育の出された課題に対して、話す、書く、動作をする等の場で、道徳指導の大切さだけでなく、他者を思いやった具体的な表現ができるようになった。

※ 合格者に試験内容の報告を依頼、次年度に生かす。正確な情報の共有、保管、提供。

最後に

・既卒者、大学院生への配慮と工夫—日時・土曜の活用等

私の授業等の中で話し、受講生の「心に響き、心に残った言葉」をあげて結びとしたい。

・守破離・一期一会・四者悟入・子育て四訓・信じることと愛すること・執念・教師魂・「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ。」(山本五十六)・「くじけないで」詩集(柴田トヨ)・青春(サムエル・ウルマン)・子は親の鏡 詩(ドロシー・ロー・ノルト)・「人間は、教育によって始めて人間となる。」「教育の背後には、人間性という大きな秘密が潜んでいる。」(カント)・「子どもは偉大な模倣者だ。それゆえに模倣するに値する大人に出会えなかったら、子どもは生涯大人になれない。模倣するに値する大人とは、子どもを真に愛する人だ。愛された子どもは、自己愛を持ち自己愛は、他者愛に変わっていく。愛されない子どもは、自尊心を持つことがあっても、それは、時として、エゴイズム、自己主義、個人主義に取りつかれ他者を排除する。」(ルソー)